

(2) 肉用牛

- 酪農家からの転業などにより、和牛繁殖雌牛の飼養頭数は平成元年の160頭から令和5年には2,330頭に増加した。
- 令和4年度の県内の牛肉生産量は5,343トン（需要量74千トン）で自給率は7.2%となっている。
- 埼玉県では繁殖雌牛の資質向上と県産和牛の増産のため、秩父高原牧場を活用した和牛の増産に取り組んでいる。

また、和牛改良の一手段として全国的に活用されている、ゲノミック評価の活用方法の確立及び生産される子牛の資質向上による農家の収益力向上を目的とした「繁殖雌牛ゲノミック評価推進事業」を平成30年度から令和2年度にかけて実施した。令和3年度からは「繁殖雌牛レベルアップ事業」を開始した。この事業はゲノミック評価に加え、牛伝染性リンパ腫抵抗性遺伝子についての検査も行い、「美味しくて病気に強い和牛繁殖雌牛」を選抜、秩父高原牧場において増頭、県内に配布することで、繁殖雌牛の資質の向上を目的とするものである。

